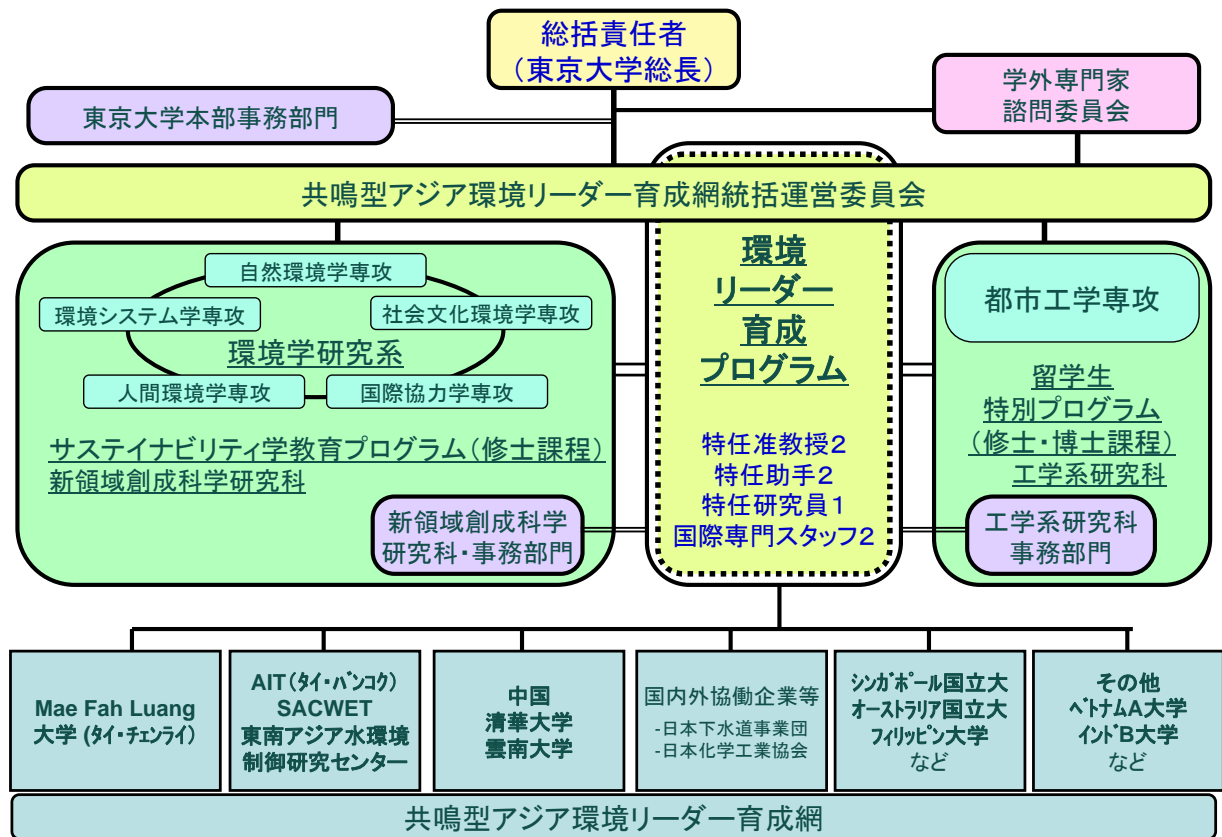
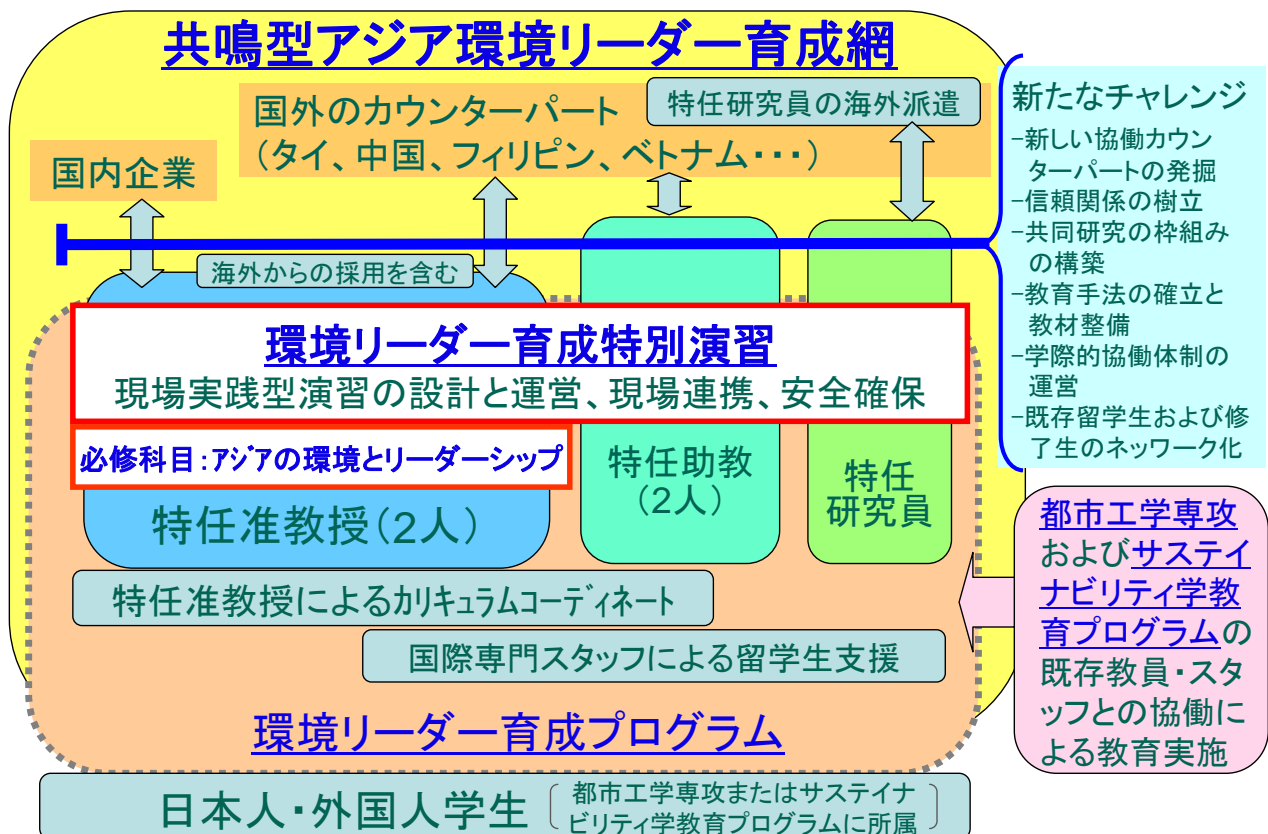


共鳴型アジア環境リーダー育成網の展開(実施体制)



共鳴型アジア環境リーダー育成網の展開(実施内容)



課題の概要

- 提案課題名 「 共鳴型アジア環境リーダー育成網の展開 」
- 総括責任者名 「 小宮山 宏 」
- 提案機関名 「 東京大学 」

機関の現状

新領域創成科学研究科には、振興調整費戦略的拠点育成プログラムによる「サステナビリティ学連携研究機構」の協力の下に、環境学の5専攻を横型につないで創設された「サステナビリティ学教育プログラム」がある。また、工学系研究科には、我が国で最初に設置された社会基盤学および都市工学分野の留学生特別プログラムを通じて長年にわたって人材育成を行ってきた実績がある。また、世界47の国・地域の機関と延べ277件の国際学術交流協定を締結し、国際的な研究交流・学生交流を積極的に推進している。留学生受け入れに関しても長年の実績を有しており、在籍留学生数は合計2372名（平成19年5月現在）である。

計画構想

国際環境リーダー育成という日本に課せられた重要な使命にかんがみ、総長の強力なリーダーシップのもとに、環境リーダー育成にふさわしい既存の留学生プログラムの実績を最大限に生かしつつ、大学の全面的な支援のもとに、新しい教育システムとして「環境リーダー育成プログラム」を構築しようとするものである。知識とスキルを提供する新規講義「アジアの環境問題とリーダーシップ」、アジアの環境問題を素材として協働カウンターパートとともに実施する現場実践型・学生参加型演習「環境リーダー育成特別演習」の必修科目を開設する。そして、既存の関連講義群から選択必修科目を設定して、10単位以上の履修を修了要件とするマイナープログラムを計画している。支援措置は、文科省国費外国人留学生特別プログラム、同大使館推薦、ADB奨学金、JICA奨学金、大使館推薦などの留学生支援の枠組みを活用し、授業料免除および生活費等の支援が可能である。

ミッションステートメントの概要

自然科学分野と人文社会科学分野をバランスよく履修し、幅広い視野と行動力・実践力を修得した人材を育成することから、発展途上国における環境問題を扱うJICAなどの国際関係機関やアジアの研究教育・行政機関、国際的な企業などで活躍できる人材を到達レベルとして設定する。国外、国内環境リーダーを終了時点にて計33名程度を育成するとともに、ワークショップやセミナーなどを15回程度実施する。現場実践型演習課題に関する教材ケース数を10件程度まで充実させ、リーダー育成教材および育成手法のマニュアルを作成する。多様な環境リーダーを確保できるため、相互扶助的に機能する共鳴型ネットワークを構築・充実させ、環境問題解決のための人的交流や情報交換を推進する。そのためにも、教材の図書出版化や共鳴型ネットワークに関するWEBを構築するとともに、ニュースレターの発刊を進める。その結果、科学技術外交、政策および技術両面においてバランスの取れたアジア圏の環境リーダー集団コアを形成させる。